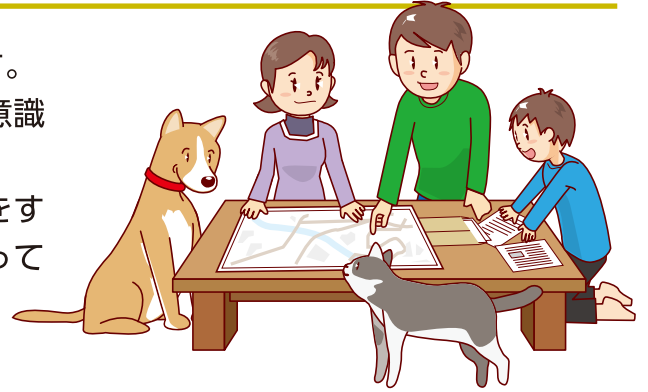


6. 災害時のペット対策

飼い主の役割とは

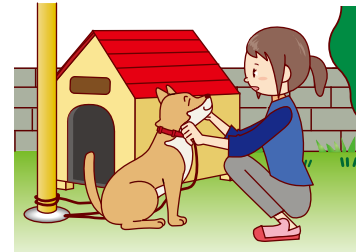
常に飼い主としての責任を果たす「心構え」を持つことです。
ペットを飼う権利と共に果たさねばならない義務を常に意識し、平常時から災害に対する「十分な備え」をしましょう。
耐震補強等により自宅の被害が少なく、また物資の備蓄をすることで、災害時でも在宅で生活できることが、ペットにとっても大切なことです。



ペットを守ること

災害からペットを守ることができるのは、飼い主だけです。自分が無事であることと共に以下、3点が重要となります

- ① 飼い主自らの安全を確保すること
→ **災害時にペットを適切に飼養するための絶対条件**
 - ② 平常時から適正な飼養(健康面・しつけ等) → **最も有効な災害対策**
 - ③ ペットと共に避難 → **災害時はペットを落ち着かせ、逃走・けが等に注意**
- ※ ペットはペット専用の避難スペースへの避難となります



防災でのキーワード:「自助」「共助」

自助: ペットの分の食料なども備えておきましょう

共助: 近隣住民や飼い主同士の助け合い、広域の助け合い、他の組織を交えた助け合い

大規模な災害では、行政機関等の公的機関による支援が始まるまでの間、自助や共助により乗り越えなければなりません。

飼い主には、まず自分の安全を確保し、そのうえでペットの安全と健康を守り、他者に迷惑を掛けることなく、ペットを適正に飼養管理する義務があります。



■ 備えるべき物品の例: ペットフード、水、療法食、薬、リード、ケージなど

災害によるペットへの被害の事例



災害時

- 家屋倒壊・転倒家具によりペットが死亡した。
- 床への飛散ガラスで人もペットも足にけがをした。
- 外飼い猫が被災日から自宅に戻らず、同行避難できない。

避難先

- 避難して暫く、人の支援物資はあるが、ペットフードの支援はなかった。
- 避難所で犬が吠えて迷惑を掛けるので、止むを得ず車中で避難生活をした。
- 糞の放置や毛の飛散などが原因で、他の避難者とトラブルにあった。
- 救援物資のペットフードを食べなくて困った。
- 避難所にペットと共に避難したが、特定食(治療食など)の入手に苦労した。
- 犬がケージに慣れていない為、過度なストレスを与えてしまった。
- 犬がペットシートに排尿・排便せず苦労した。
- 他人や他の場所、他の動物に慣れない為、何処にも預けることができなかった。
- 感染症の予防接種をしていないペットが多いため、感染が心配だった。